

No.14

Bangladesh南東部に建設中の深海港における 航路埋没モニタリング

佐貫 宏¹⁾, 黒滝 秀平²⁾, Kevin Bobiles²⁾, 鷗飼 亮行¹⁾, 水流 正人³⁾, 荒明 裕貴⁴⁾, 中山 晋一⁵⁾, 阿部 義史⁵⁾, 高江 圭作⁴⁾

Monitoring of Channel Sedimentation at a Deep Sea Port in Southeastern Portion of Bangladesh Due to On-Going Construction

Hiroshi Sanuki¹⁾, Shuhei Kurotaki²⁾, Kevin Bobiles²⁾, Akiyuki Ukai¹⁾, Masahito Tsuru³⁾, Yuuki Araake⁴⁾, Shinichi Nakayama⁵⁾, Yoshifumi Abe⁵⁾ and Keisaku Takae⁴⁾

■ 要旨

本稿は、現在建設中のマタバリ石炭火力発電所港湾について、現地データを基に現場海域の特徴や航路埋没特性を報告するものである。毎月実施している深淺測量結果から、航路埋没は5～9月のモンスーン期に顕著であることが改めて確認された。一方、航路埋没量について実測値と事前予測解析結果と比較すると、両者は概ね良好に対応した。波浪・濁度観測も併せて実施した結果、

航路埋没は港外の高濁度に強く起因し、特に高波浪と大潮が重なると、著しい埋戻りを生じることが明らかとなった。また、港内の堆積土砂はシルト～粘土分が支配的であり、将来の航路管理を考える上で有用な浮泥厚データについても計測を行った。さらに、現場海域では外郭施設周辺の洗堀も重要なモニタリング項目の一つであり、北防砂堤先端部において顕著な洗堀が確認された。



図-2 港湾工事の状況 (2020年1月)

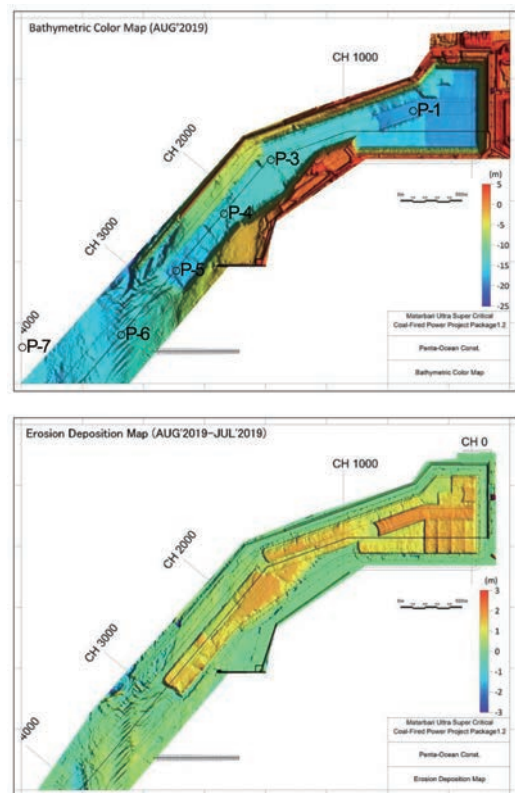


図-4 マルチビーム測量 (2019年8月の例)

1) 技術研究所 土木技術開発部
2) 土木部門 土木本部 土木設計部
3) 技術研究所
4) 国際部門 国際土木本部 土木事業部
5) 国際部門 土木工事事務所

* 土木学会論文集 B2(海岸工学), Vol.76, No.2, 2020, 土木学会, pp.L1327-L1332 掲載